

1996-50



毎日新聞に載った記事を読んで、お礼の首飾りを戴いた。オウム「美少女戦略」の内部文書があった。なんと美少女に「お礼の首飾り」をかけた。提案してあるそうだ。そしてこの記事の最後に大注目だ！

法に訴える手段は必ずしも上策ではない(スパの例もある)

「法に訴える手段は必ずしも上策ではない(スパの例もある)」と述べている。扶桑社発行の週刊誌「SPA(スパ)」に連載中の「ゴーマニズム宣言」を連載中の小林よしのり氏を訴えたことで、逆に漫画の中で攻撃「された」ことを指し示している。

この中でオウムには有利な報道をしてきた記者には表彰書が送られている。

オウムの「美少女戦略」の内部文書があった。なんと美少女に「お礼の首飾り」をかけた。提案してあるそうだ。そしてこの記事の最後に大注目だ！

毎日新聞に載った記事を読んで、お礼の首飾りを戴いた。オウム「美少女戦略」の内部文書があった。なんと美少女に「お礼の首飾り」をかけた。提案してあるそうだ。そしてこの記事の最後に大注目だ！

一部公開 応援レター

●小林さんのメッセージは、凡百のえせメッセージャーを飛び越えて私の脳につき迫ってくるのと同時に、素直になれず、些細なことで、思い上がったり、卑屈になってしまう自分が恥ずかしく思えてきます。自分の発する言葉に責任を取る——その意味を激しくたたきつけてくれる小林さんは、やっぱり凄い人です。自分も「覚悟」を決めることを恐れない人に少しでも近づきたいです。

(長崎県/松崎隆寛)

●『ゴ一宣』の終結、お疲れさまと申し上げたく思います。作品の影響力の故に、ご苦勞は絶えなかったことでしょう。人を傷つける痛みから、嫉妬や、やっかみの煩わしさまで。己が奥底の心情までも狙上るものとして吐露する痛みにすら耐えて来られたこと。そして、『ゴ一宣』よ、ありがとう。知人の命を奪った終末妄想教団に対して怒りをもって発言する最も大切な場が先生へのお便りでした。

(神奈川県/足立谷子)

●残念です。非常に残念です。単行本も全部揃えた私としては、あまりにも突然のことで悲しみすら覚えます。ショックで仕事も手に付かない状態です。これからどうやって先生を応援していけば良いか教えてください。とにかく、私にできることは『ゴ一宣』を友達に宣伝すること、次なる先生のアクションを待つことです。

(滋賀県/古崎あゆみ)

●私は、本当に「先生」だって思える人に初めて出会いました。先生、いっぱい怒ってください。くすんでしまった人の心を我にかえらせる先生の怒声が必要です。先生の怒りは優しさです。しかられて、気付いて、見直して、何かを立て直していける。先生の怒声は何かを育てる力があると思います。先生のマンガ大好きです。ずっと描き続けてください。いつも私読んでます!!

(鳥根県/板持フキコ)

●オウムの元信者がTVで「解散命令と破防法で二重にしばりつけない」と言っていました。まだ逃げている実行部隊もいるし、もし今度は大阪の地下鉄にサリンが……と思うとぞっとします。麻原は信者にとっては神なんだから、「人間宣言」をして信者に「もういいです」と言うしかない。まだ信者たちはオウムの歌をカセットで流しながらビラ配りして、全くコリでない。やっぱり破防法だよ。

(和歌山県/田中亜季)

●すばらしい英断だと思います。納得できました。『東大一直線』も『おぼっちゃまくん』も読んでいたけれど、『ゴ一宣』で改めて出会った小林よしのりってすごいマンガ家でした。これからも他誌でゴーマンかましてください。きっと沢山、共感や励ましの手紙が届いていることでしょう。これもそんな一通です。

(埼玉県/奥山まちこ)

第145章で描いた時は、マスコミに登場しない一般人だった。顔は似せて描いたが、今回は似せられぬ。このロビイアから来た乗客は、レンゴの代り色料に塗られて行かれ、マスコミで洗脳される。ほとんどせめられた。指揮者は今、ロビイアで障害者手帳もらって舌痛の日らしいから、いしこの時、誘いにのって入る人だ。アハハ。



…などと
わけのわからん
ことを言い出す

人を傷つけて
つらいのは
こっちの方だ!



傷ついたら
言われるのは
がまんならん
こっちは
傷つけるのを
覚悟して心が
えぐられてるの
わからんのか

彼女がユリゲラーの
スフィン曲の
話をして興味を
引きつけようと
すると…
完全にあげて笑う
…彼女傷ついてました
でもあいつは言ってます



※この女については、上巻外巻



煩悩のない
ところない
芸術はない

…と
やせがまんするし…



初めて
知りました…

法に訴える手段は
必ずしも
上策ではないな

狂ってます

…狂つとるなア

新ナマでオウムの3日目やてたが、マスコミOK、サリマイようして元々の信仰やめさせようみたいな。するの97、1項元はむとと出たし、ただし修行の本質と大衆の捉えな、間違、と。正確の最後の言葉が、そこにつなぐてくるの大事。脱会希望信者のアローは教団つぶしてすべし。エリさん、おぼしき、子供は社会で保護、山崎、まど、中学生の反抗心。



小林よしのりめ
告訴したら
ますます調子に
のって描き始め
おった…



…うむ
今までマスコミは
告訴すれば
裁判で不利に
ならぬように
書かなくなった
のに…
訴えられる
こと自体を
恐れてオウムの
こと悪く書かない
ようになってたのに…



すみません
私の
失敗でした

こいつ
狂ってるんですよ



あなたは
信者の
人権を
侵したん
ですよ
…と言つと



「ゴッ宣」の第125章を
読んで傷つけられた信者の代表を
連れて行けば、おとなしくなる
かと思つたら…



人を
傷つける
作品描いて
良心がないの
ですか?

…と言つたら…



人権なんか主張したら、
信者が信仰を
深めるための
「受難」というものが
なくなるじゃないか

キリストが
人権にかけて
布教したかつ



- 宝島30でテレビ伊藤と対談、いい人やあ。麻原と金正日のこと話してるから読みにみてくれ。ゴーマでも出すかもしれない。
- 産経新聞で5/27で河野さんに謝罪した。えらいけど、一面で報道したミスは一面で謝罪すると思える。

なぜ「情報」が問題なのか？

先日、東工大に橋爪大三郎氏に会いに行った。7月に幻冬舎から橋爪氏の本が出るというところで、その中でわしとの対談で橋爪大三郎の知を一般に届けようという企画があり喜んで協力を申し出たのだ。

今回一番批判されねばならんやつは「誤った情報を流した者」になるぞきつと……



全部「情報」に置き換わって、全部「情報」と「知識」と「情報」それは違うんです。

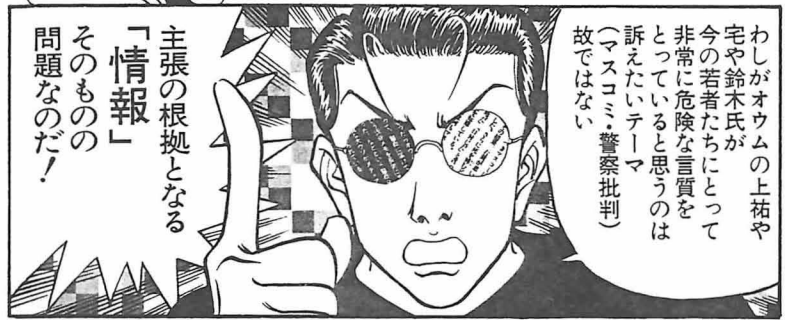
橋爪大三郎 1948年生まれ

東京工業大学助教授（社会学）著書に『はじめての構造主義』（講談社現代新書）『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）など



北野武は宅のことは何も言っていない、しかし電話にきたら、有線テレビでサキヤク飛いてみるとメチャクチャ言ってるわけな気分。竹内義和も坂元某のこともバカとまで言いすぎる。痛快、久しぶりに気が晴れた。

まこれは皮肉だがマスコミ批判も警察批判も論議になる質があるならいいと思う



法に訴える手段は必ずしも上策ではない（スパの例もある）

わしに来た手紙……
もはや心証は異なっています。もはや「決りつけ」でも「手紙」と偏見」と言われている。これは越えてしまったのでしよう。手紙に未だ、午後に「SPA!」が手元に来ました。面白かった。
状況が刻一刻と変化して行く。ここ連日なには、あるはずのタイムラグを全く感じません。これはプロとしての技、気配がずば抜けている理由以上に、より一歩が森羅万象の根源と時代の本質の只中に身を置いているからでしょうね。

ボクは村井氏の死に地下鉄サリンで死んだ人々等質の哀しみを強く覚える

村井はマスコミの過剰報道で殺された

徐は右翼だ単独犯だかわいそうに



へんです！
サリンは村井の指示で作られたのに、加害者と被害者に等質の哀しみを覚えるとは……
あんたいつから博愛主義になったん？ 復讐主義じゃなかったのかね？
被害者に無礼なり！

ちがいます！
すでに徐の共犯者・上峰というのがタイホされています。オウムは暴力団に覚醒剤でつながっていた疑いがある。オウムネタという洗脳に適した覚醒剤が六本木あたりで流通していた。そしてオウムの幹部の自供では、すべてを知る村井を「ボアもやむなし」と。

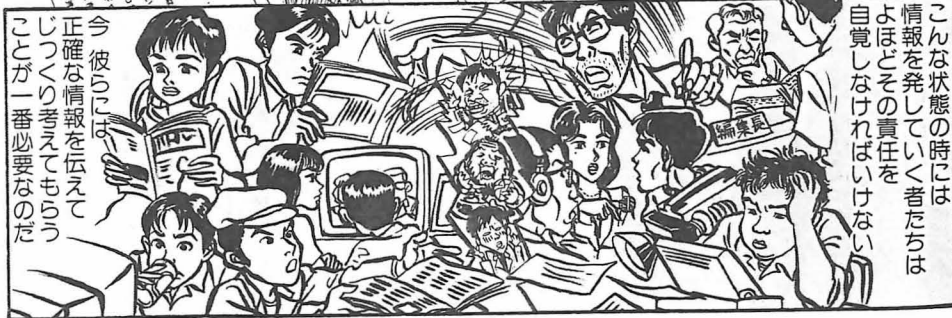
ちがいます！
あつたのです！
「假谷メモはなかった」説は3月7日、日刊スポーツが出した。誤報だ。それをすぐさま上祐が使ってウソの大本教、一体どっちなんだとどまされた者が、假谷氏の長男に聞きに行くが、むろんべらべらしゃべれるような時ではないから、「メモはありません」と言って追い返すのは仕方ない。とーぜんです。父の生死がかかっている時なんだ。見せびらかすメモでもない。そこはくみとってあげるのが知恵でしょう。本人の口伝えであっても情報は情報でしかない。



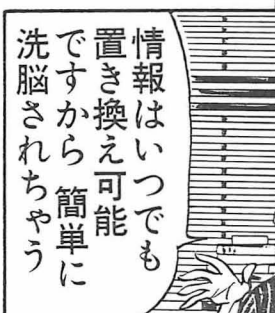
10月17日。お待たせの「ゴ」第7巻が6月1日に刊行された。オウムに訴えられた話題作、125頁収録。企画「ゴ」も「よいん」に続く一冊。スタッフ全員泣きながら描き下ろした「スタッフもゴマンなまじよなすか？」など内容盛り込み。表紙のおいり肖像画、ほり絵バージョンと書店でみたら……もう買えないぞー、買えないぞー、買えないぞー!!



こんなことはかつてなかった



電波少年はまた、最近、意味のある話ばかりして、突然の意味のない話にとまどって、ついていけなくなった。17日本報明ら、ア、いいや。ガストのしに失礼のないようにと、ちゃんと気づかされたもん。





153章
解説

知識と情報

橋爪大三郎と語る

橋爪大三郎氏は、東京工業大学助教授。構造主義やヴィトゲンシュタインを論じ、新しい社会理論を構想しつつ、現代社会の動きをわかりやすく説くことで定評の社会学者。著書に「はじめての構造主義」(講談社現代新書)など多数。

作品に出てくる作者との対談は、麻原彰晃オウム真理教教祖が逮捕された翌日、95年5月17日に行われたもので、「大問題! Q&Aでわかる世紀末ニッポン」(幻冬舎)の第三部に、「トークバトル」として収録されている。「社会学は面白くてわかりやすくない」「社会学は面白くない」という持論のまま、この本ではオウムはもちろん、ほかにも北朝鮮、選挙制度改革、皇室等の時事ネタをわかりやすく整理。自分の固定観念と戦う「格闘技」として学問を楽しめるはずだ。



川田龍平くん、例のやつ描くなら、もう少し待ってくれー! その前にもう一ぺん あの殺人医師のことを話してもらえぬ。今、オウムの話の中に紛れちゃったシヤバイからタイミングを考えてる。かならずやるぞ!!



中村とうよう氏とオウム教の関係が、ジャ・相当トシのほずなに、さばりつるな。この頭脳。これにこそ芥沢俊介とか山崎吉之とか、未だにオウム教の問題を「教団と個人の対立」の図式で語ろうとしている。イエスの方や統一教会の時とは違うんじや！ 語らねえ。

情報脳世代の指摘

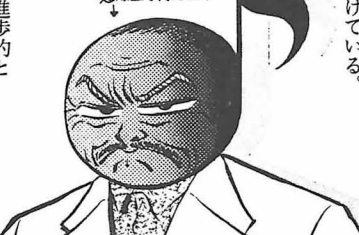
あ、でもやはりあの橋爪三郎氏が言ったのと同じこと、生活体験よりも情報脳の方が肥えてしまっているのはインターネット知識人の特徴であり、いわば知識人こそは元祖おたくだと言つのである。

ここでもう一つ紹介したい文章がある。6月号から『ミュージック・マガジン』中村とうよう氏の秀逸な意見だ。

オウム問題はわれわれに、厳しい思想的課題を突きつけている。

かつて進歩的と言われてきた人々にとって、ひょっとしたらその試練はソ連崩壊以上に重いかもしれない。

写真が足からなかつたので、想像画で表します。



北野誠がラジオサイキックで紹介してたが、わしの読者にも紹介したくなつた。

4月26日の朝日夕刊ウオッチ論調の芥沢俊介いわく、(サリン事件以降の)第三者の私が恐れたいのは、反オウム対オウムという対立図式にばかり、そのなかで思考停止に陥ってしまうことであつた。

ウソだね。

反オウム対オウムの対立なんて図式はどこにも存在しない。



警察が徹底的な捜査をやるのは当然のことだ。オウムが第一、第三のサリン事件を起こす危険がない、と言いきる自信のある者以外は、いまの警察のやり方を批判などできないはずだ。

……裁判はあとでゆっくりやりやいい。いま必要なのは現実にと立ち向かうのだ。オウムがあれだけの施設と原材料と実行部隊をかかえており、オウム以外に怪しむに足る容疑者がいないのだから、われわれがオウムがやったという結論から逃げるとしたらそれこそまったくの判断停止でしかない。



鋭い！ズバズバきてる情報脳と化して生活者のリアルな直感を失った知識人より、音楽評論家とうよう氏の方がはるかに頼りになる。

氏は破防法とか内乱罪の適用を考えてない警察はむしろ自制心があつて立派な態度だと断る。そしてさらに痛烈に言うのだ。

警察のやり過ぎを批判するのは、オウムへのイラ立ちや恐怖を、警察に間違ってぶつけてるのであつて、良識のどこにか

卑怯な態度だ。

そしてさらに……



7月10日発売「イタ」創刊1号に小林のインタビューが載るらしいから読んでみよう。武田徹、人話通じや。

あ、何か世間性を取り戻してきたなと

あの時上祐が初めて素直にうなずく感覚、あんなものがあつたね

……これは、効いたなと思つた

君たちみんな30代だろう

教祖さまだって40歳だろう



そのとおり！初めて外部にふれたんですよ、あの時

大島さんはインテリとして喋るより、一人の大人としての人間とバランス感覚で語つた

ところが故郷のナザレを通過する間は一度も奇跡を行へなかつた

つまり故郷で昔の知り合いとか親戚が来ておまえ最近顔を見せないけど何やってるんだ？

親父さんと会つたか？

……とか言われたら、はつたりかませなかつたわけですね



小林さんも親って恥かしいということを描いてましたよねあれなんです

バイブルの話でイエスが信者を集めて旅を続けたり病気を治したりいろいろ奇跡を起こした



確かにね、わしが何言ってるかわし親は何も見てないし、もつといからさうさ帰ってきなさい、としか言わねえ

大人に接する機会が今の若い人たちにない、というのやつ、やっぱあるだろうね

それが最大の問題なんじゃないですか

生活の世間の情報、世間が圧倒的に大きくなつてしまつた



応援レター

☆三十一年間 小林よしのりさんとは何かを語ってきたように思えます。オウム、自分をかばいいつも被弾法に反対する弁護士と江川紹子さん、個々を失っている若者や少女たち。
(岐阜県/山本恵)

だれだ、ピンポイントで隠しといた情報はあるじゃねーか、情報公開、情報公開、ふむけんじやねーよ。こめー、このやりかた『今後、有文な市民運動を立ち上げる人々のために』ほんのちょっと公開しただけでも厚生省並に良くなるくせしやばって、欺瞞的なヤツら、たらないぜ、ったく!

例え最近伊藤弁護士が学者から懲戒請求を出されるという事件が起こっている

島田裕巳を社会的に抹殺せよ

これにおこった科学史家の米本昌平はしめ山折哲雄、橋爪大三郎、つばな学者が名をつらね伊藤芳朗の弁護士の職業倫理を問っている

と伊藤芳朗がマスコミで言ったために島田ハッシングが起つて島田氏は大学を辞めざるを得なくなった

たまたまオウムという宗教の周りをフイルドワークしたばかり研究したばかりの島田裕巳をオウム擁護とハッシングするのは学問の自由を侵すというわけだ

大変な学者先生方を前にして漫画家のわしが言うのもおこがましいがちゃんちゃらおかしい

確かにわしがフイルドショーに出た時も島田氏と一緒にわした時があつたがオウムに対する立場を確認しただけなのに

その時同席していた滝本太郎弁護士が宗教学者の看板をおろせ!とまで言い放つた

島田氏か席を立つ時呼ぶ止めておくれとわしは宗教学者やめろなんて思つてないから

この人にこそまて言うのはかわいそう...と思つて

島田氏が伊藤芳朗や滝本太郎のような社会的信用性を持つ知識人である弁護士が

確かに弁護士の言つてやると行さずさだ

伊藤芳朗や滝本太郎のような社会的信用性を持つ知識人である弁護士が

職をやめると公器であるのは非常識である

ぜび自分の見込み違いや失敗もふまえたオウム論を発表してください

わしは読みたいです

くそ、この学級民主主義の病理を毎回100ページくらい描き明かしてやりたいぜ!

では島田裕巳はどうだろう?

わしがオウムに尾行され続け殺されかけ裁判やつてる時

第七サティアン周辺からサリン生成物が発見された時

やっぱりフイルドワークしてサリン工場隠しの発泡スチロールのシバ神見て「第七サティアンは祭壇のある所」を安全宣言してまんまとオウムに利用されちやつた島田裕巳は

島田氏も安部英ほどではもちろんないにしても厚生省に利用された松田重三くらい知識人の罪を感じてるの常識でもないのか?

ボストモタンの流行の中で中派新と共におウムの安全性にお墨付きを与え布教に利用された知識人であるのだから

あの時点であのように言っちゃう意味をどのくらい常識的に判断できてただろうか?

飯谷さんがさらわれてしまつてるとき

なんせこの2人とも「麻原はおぼろげなまん」と言つてわしの漫画を例えを出して若者を安心させたのだからわしとしても人ごとじゃない

「村のどまん中」で発言しちゃったからには「知識人の責任」が問われてもしかたなからう

漫画家のわしですら、オウム運動に駆り立てた危険を早急に察知身内だったと云えるオウム嫌われるの覚悟で「日常に復帰する」で警告する常識カ、ロフエビマルにあるのに...

あなた方はオウムの会合の学生が日堂へ準備させろと云った

あなた方はオウムの会合の学生が日堂へ準備させろと云った

中沢氏にも島田氏にもわしは学びとるあつたんで感謝してるんだが言つたア言つたかね

わしの漫画のキャラは異形だがこれが現実について迷惑でしかないってことが証明された

二まんがましでよかですか?

応援レターの宛先は〒101-8111 小学館3A 編集部『新・ゴーマニズム宣言』係まで

日本経済新聞

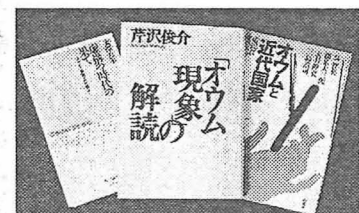
1996年(平成8年)7月7日(日曜日)

おまけ

日本中を揺るがせたオウム真理教事件をめぐる、活発な議論が繰り返されていく。地下鉄サリン事件から教団幹部の逮捕にいたる時期、風俗的な話題が世の関心を呼んだ。その狂騒が冷めた後、現代日本の精神状況を解説する知的な格闘が静かに始まっている。

□

□



オウムの場合は不幸が何もないという空虚さが信頼の機軸となっていた。サブカルチャーのパロディや空虚さの克服が現実の金銭定へと暴走していったのはなぜなのか。

大沢氏は「近代」のルーツを古代ユダヤ教の「神教」(オウム現象)の解説(筑摩書房)の中で同氏はオウム真理教は突然変異ではなく、ニュー

それ自体はむき出しのロジックだが、そこに冷戦の崩壊や自殺本の流行に見る生の無意味化といった時代相を重ねていく。

評論家の大沢俊介氏は「アエスの方冊をはじめ、日本の新しい宗教に注目してきた。近著『オウム現象』の解説(筑摩書房)本人は自らの意志で体制をう言葉をしぼりだしている。文化部 内田洋一

「オウム」生む社会を解説 戦後日本の精神構造と連関

これまで指摘されている通り、大沢氏もオウムの思

想を終末イメージに彩られた七、八〇年代サブカルチャーのパロディと見る。例えば、教団施設にあった空気清浄器と人気アニメ「宇宙戦艦ヤマト」に出てくる放射能除去装置の名前が同じ「コスモクリーナー」だったといった点を指摘する。過去の新興宗教では、貧困や病気が入信を促すことが多かったのに対し、オ

にさかのぼり、救済へと直線的に発展する時間の流れ方を分析する。そして、その近代の論理を戦後日本にあてはめる。社会変革の理想が否定された後、なお理想の純化を目指せば、論理的に理想は自己否定され、虚構の肯定を招く。それが現実の否定、世界の破壊へとつながっていくというの

内向から「自分探し」が始まり、「自分が変われば世界が変わる」というニューエイジの流れに合流していった。日本の戦後五十年はこの「自分探し」が露出する過程だったという。

先に行われた「宗教と社会」学会では、オウムを生んだ神秘主義などの潮流が事件の後、衰退することなく、拡大していると報告された。若者たちの「身体や意識を束縛と感ずる感受性」(大沢氏)、それを乗り越えるための超能力への関心、むしろ進行しているかに見える。オウムのものをいかにして超えるか。大沢氏は社会的な考察、格闘の果てに「他者に対する徹底した寛容」という言葉をしぼりだしている。文化部 内田洋一



中野翠さん、おほめのFaxありだにたつス。こんな始末なもんご、くす。



応援レター

☆第14章 読みました。なぜか泣きました。どうしてなんだろ。何度も読んで感じたのは、大きな優しさ。なにか、一時的な反感を覚悟してよりしんの本当の優しさ。私の涙はよりしんの心の涙なのか。(長野県/舟川久美子)

'96総選挙 再考

「実はワシ、今回は投票に行っていないんです」

「ゴーマニズム宣言」シリーズで、タブーや遠慮を排して歯切れのよい怒りを表現して人気の漫画家小林よしの氏は、総選挙に棄権した理由をこう語る。

「ワシは、自分の感覚を一般の人々の感覚に、いつもできるだけ近くしておこうと思っているが、今回の選挙は争点が実感できなかった。行政改革は、しよせん庶民には関心の無いことだ。消費税を5%にアップする・しないは、もっと経済が複雑に連動している社会に生きている人々にとって、話が単純すぎた」

しかし、マスコミの論調では、棄権は、許されないことである。「とにかく投票へ行け、今回の選挙は重大な岐路だ、投票しなければ社会のことを語る資格はない、とばかりに言いつつたでしょう」

■世論に乗る方が危険

小林氏は、そうした「合唱」がどうしても気になった。

氏は九月、薬害エイズ問題で研究者や厚生省や製薬会社を追及した連

動を振り返った『新・ゴーマニズム宣言スペシャル 脱正義論』を出した。「HIV訴訟を支える会」で互いに個人として連帯してきたはずだった学生たちが、次第に「個」を失い、従来のイデオロギーや組織に絡めとられていくことを悲しんだ。

棄権

義務感のみの投票、個の喪失にも 低投票率に「過渡期」の兆し見る

「バラバラの状態ではない、共感して全員が行動を起こさなければならぬ」と個人を組織にまとめていく言葉は、聞こえはいいが、薬害エイズやオウム真理教の問題は、個人が「個」を失ったシステムに起因したことでないのか」

■厚みのない民主主義

と、一部の者がほしいままにし、「いつか来た道」をまた歩むことになる。危ぶむ声もあるが、投票に行かなかったといっても、決して無関心ではなく、「いつか来た道」の兆しを見分ける力も持っている。むしろマスコミが伝える世論に乗っているだけの『政治に目覚めた市民』の方が危ういと思う。すでに人の意見にのっかっているのだから」

選挙も、提示されている施策にはリアリティーがないのに、あいも変わらず「ねばならない」と投票するのでは、「個」の喪失ではないか。

「だから、今回、投票に行かなかった人がかなりの数いたとわかって、すごく安心したんですよ」と小林氏はいう。「政治に無関心でいる

だ。『封建主義者かく語りき』などの著作がある氏は、民主主義が封建主義より進んだ社会の在り方だという「常識」に疑問符をつきつける。民主主義体制の中から、いつのまにかファシズムが生まれ、ヒトラーが大衆に支持されたという歴史を強調する。

氏は「人間は、文化の厚みがあるときは、そのさまざまなかかわりを通して政治への経路を持つことができる」という。「近代社会以前、たとえば中世の遊牧民たちが政治的に愚かだったとは決して言えない。逆に近代以降の法治国家であっ

ても、人間の関係がもつたら法律で規定され、砂粒のようなバラバラの存在になってしまっている、いかに容易に逆行・退行するか。オウム真理教に取り込まれた人々の例に表れている」

氏は日本の戦後民主主義の姿をこう見る。「明治維新と敗戦で、日本は文化の厚みを無くしてしまった。個人がどのようにして社会的・歴史的人間になるのか、つかめなくなってしまった。そこに民主主義が木に竹を継ぐように導入され、本来、制度の一つである過ぎないのに、人間の生き方として最高であるかのように短絡的に考えられてしまった」

■「なじみの先生」失う

社会学者の橋爪大三郎・東京工業大学教授は、「日本の有権者には、何か勝手な思い込みのようなものがある」と語る。人々が、自分たちが選んだ政治家が個人でなく、党議決定に縛られ、党と自己同一化して政策決定していることに目を向けないできたことを、指してだ。「日本の有権者は、いまでもよく投票してきたものだ。以前投票率が高かった



橋爪大三郎氏

呉英氏

とも、手放しで喜ばない」

橋爪氏は、まず投票の動機や高い投票率を問う。「政治的な選択というものは、右から左まで多様な意見が連続的に分布しているところに、あえて区別を持ち込み、どれかを選ばせることだ。自分の意見が明確な人なら、すぐに判断することができる。しかし戦後日本の投票の動機は、政治的選択ではなく、地元の利益を代表してくれるから、企業グループだから、労働団体の仲間だから、というものではなかったらうか」

橋爪氏は「今回投票率が低くなっただけで、有権者が集団ぐるみで投票するのでなく一人一人が判断するようになる過渡期であるならば、それはそれでいいことではないか」と見る。「これからアイデアを尽くす。例えば、予備選挙のような制度を導入して、きめ細かな具体的な政策を掲げた選挙を積み上げて、勝ち残った候補者がそれを大きな政策にまとめ上げる。これは小選挙区制度だからこそ可能なことで、そうしたアイデア次第で、代議制の持つ力は回復できる」

「棄権」が四割。この数字は、政治システムの明日にとって、「絶望」への坂道なのか、「希望」への踊り場なのか。(前田 浩次)

世論調査では「党より人を重視する」とする有権者が多数を占めるが、その内実が伴わない結果、国会では数のゲームが繰り返され、議会の政治に対する力が衰えてしまった。

はじめに

岩波新書の創刊は一九三八年一月。以来六〇年、赤版から黄版・黄版・新赤版と装丁をかえつつ、刊行点数は二〇〇〇点を越えるにいたりました。

わたしたちはいま、さらに時代の要請に応える多彩な出版活動を展開するためにこそ、あらためて岩波新書の六〇年を捉え直したいと考えております。その一環として、各界で活躍の方々に、左記の趣旨でアンケートをお願いしました。

岩波新書「私の薦めるこの一冊」をお教えください。その際、どのようなことからのご推薦をお教えください。(A)生き方を考えるうえで示唆に富む、(B)情報として役に立つ、(C)楽しく豊かな時間を過ごせる、(D)その他。そして、ご推薦の理由、それにまつわる思い出などをお教えください。

その結果、四二九人の方々からご回答をいただくことができました(なお、推薦理由の分類について無記入のものはすべて(一)としました)。ここにお届けする『図書』臨時増刊号は、寄せられた全回答を筆者の五〇音順に配列・編集したものです。

ご推薦いただいた書目には、残念ながら現在品切れとなっているものもあります。このアンケートをもとに来年二月、六〇年を記念して、二〇点を復刊いたします(該当書目には著者索引に●印を付しました)。

回答をお寄せいただいた方々のご協力に、篤くお礼を申し上げますとともに、本号が読者の皆さまに恰好の読書案内として役立つことを願っております。

一九九七年一月

岩波新書編集部

橋爪大三郎 (東京工業大学/社会学)

栽培植物と農耕の起源 中尾佐助

(B) 社会と国家と権力の起源について考えていた文学部社会学科の学生のころ、書名にひかれて求めた一冊。農業の基礎には、人間と自然の間の気の遠くなるような相互作用の蓄積——栽培植物——の存在が欠かせないことをのべている。野生種・栽培種の差分を、人間の社会的行為の産物と考える視点は、私の転換点の一つとなった。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

読者を一段低くみて、これぐらいの見出しをつけておけば、これぐらいの記事を書いておけば、ちやうどいいであろうというおごりが行間に見えるとき。

「新聞」に関する 各界アンケート

新聞協会研究所が実施した「第十二回新聞信頼度調査」では、新聞に対する信頼度を表す数字が過去最低レベルとなったことが、明らかにされた。このような折、本誌では、新聞と読者、新聞と社会の関係をあらためて考えるべく、各界各層の人々を対象に、アンケートを実施した。質問状は編集部が選んだ八十六人に送付、三十五人から回答を得た。設問は以下の五つである。

Q1. あなたは普段、新聞を、いつ、どのように、どのくらいの時間読みますか。テレビや雑誌に比べて、どうでしょうか。Q2. あなたは、読者として、または、取材を受けた者として、新聞に寄せていた信頼が裏切られた、とお感じになったことがありますか。あるとすれば、それはどんなことですか。Q3. 「新聞は分かってないな」とお感じになったことがありますか。あるとすれば、それはどんなことですか。Q4. あなたにとって新聞は大事な存在ですか。また、社会にとって新聞は大事な存在だと思いますか。なぜそのように思われますか。Q5. インターネットや衛星放送など、様々な新しい情報源・媒体が出現しています。今後、ますます、暮らしの中に入ってくるでしょう。それでもあなたは新聞を読みますか。そんな時代、新聞には何を期待しますか。

回答は、個人の資格で書いていただいた。必ずしも職業上のコメントではない。しかし、便宜的に、回答者を市民・住民等、表現者、学者・編集者、政・官・経済界の四グループに一応くくったうえで、五十音順に掲載した(敬称略)。

回答していただいた各位に厚く御礼申し上げます。

(編集部)